

大阪の南画

—近世から現代まで—

南画とは、中国の士大夫が余技として描いた南宗画(文人画)に、江戸時代の日本の画家たちが影響を受けて誕生したジャンルです。大阪では18世紀中頃から、池大雅の弟子である福原五岳、文人のサロンを形成した木村蒹葭堂、さらには岡田米山人・半江父子ら、個性豊かな絵師たちが活躍しました。明治になると南画はフェノロサにより排斥されますが、大正期には近代西洋絵画の影響を受け、南画が再評価されます。大阪でも相次いで設立された美術団体において、矢野橋村や甥の鉄山、水田竹圃などが革新的な南画を発表し活躍しました。近世から現代まで、大阪で花開いた南画の世界をご紹介します。